



第7881号

2023年8月28日(月)

日米韓首脳のスーピーチカ

言の葉OFFICEかのん代表 川邊 暁美

◆3首脳、会見の印象は

先日、米大統領の山荘「キャンプデービッド」で開催された日米韓首脳会談は、「日米韓パートナーシップの新時代の幕開け」を宣言する歴史的な会談であったと言われている。政治的な成果は今後に期待するとして、3首脳の共同記者会見での印象や話し方から感じたことを記してみたい。

まず、会見の冒頭、バイデン大統領が笑顔でこう切り出した。「私が幸せそうに見えるのなら、それは私が幸せだからです」。今回の会談がいかに有意義であったのかを語るのに、これほど効果的な一言が他にあるだろうか。「本当に素晴らしい会談でした」「これは歴史的な瞬間です」「私たちは歴史を作りました」など畳みかけるように言葉を重ね、成果をアピールした。終始、余裕のある表情、自信を感じさせる語り口であった。

続いて、バトンを受け取った尹大統領も落ち着いていた。バイデン大統領としっかり目を合わせ、笑顔でうなづく様子や、話しながら手元、左右、正面に均等に視線を配る様子に、律儀な人柄がうかがえるような気がした。

そして、岸田首相。最初の部分が良かった。首脳会談開催への謝辞やキャンプデービッドに歴史の1ページを刻むことへの思い、3カ国の関係強化の意義などを述べたのだが、一言一言が力強い。特に、「法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序は危機にひんしている」ことを述べたくたりは、顔を上げ正面を見据えた目にも力があつた。

◆キーワードが際立たない

岸田首相の話し方は安定しており、「3つの観点からお話しさせていただきます」と項目を立てるなど、構成も分かりやすい。気になるのが、ほぼ文節単位で細かく言葉を区切る「ぶつ切れ」。例えば、「日米同盟・と・米韓同盟・の・連携を・強化し、日米韓3カ国の・安全保障協力を・新たな・高み・へと・引き上げます」のくだりだ。

おそらくキーワードが目につくように、「日米同盟」「米韓同盟」などを、かぎかっこで囲む、色を変える、太字にするなど、原稿でも強調して表記しているのだろう。キーワードを際立たせるために、「はっきり、ゆっくり」発音するのは鉄則ではあるが、「助詞」を切り離して、しかもキーワード同様の明瞭さで発音してはせっかくのキーワードが際立たない。せめて助詞を前の単語に添わせて、「日米同盟と・米韓同盟の・連携を強化し・日米韓3カ国の安全保障協力を・新たな高みへと・引き上げます」ぐらいにまとめたら、声の勢いも失われず、文意が伝わりやすくなる。

◆最初と最後が大事

岸田首相は全体のほぼ半分は顔を上げて話していた。特徴は、キーワード部分は原稿を見て話し、文末の「重要な一歩を踏み出しました」「強化していく土台を創ります」などは必ず顔を上げて話すことだ。引き締まった表情を見せて一文を話し終るので説得力がある。ただ、先に挙げた会見最初の部分は、キーワードも含めほぼ顔を上げて話し、より堂々とした印象を与えた。会見のラスト「キャンプデービッド原則を羅針盤とし、両首脳とともに国際秩序を守り抜くため、戦略的連携の一層の強化に取り組んでいく」という部分は、キーワードも下を見ず、顔を上げて話した方がより決意が伝わったと思う。最初と最後に鮮明な印象を残したい。

(かわべ・あけみ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111 (代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003